

## 第19回夏季大会要旨

## 講演

## デカダンティスム研究の諸相

佐藤 喬

(慶應義塾大学名誉教授)

当日配布したレジユメの概要は、次の通りである。

1. デカダンス研究の意義
2. デカダンスの定義
3. デカダンス文学運動の期間（ボードレールの「悪の華」よりシモンズの「ロンドンの夜」第2版まで）
4. 語源的アプローチ
5. 唯美主義・象徴主義・芸術至上主義とデカダンティスムとの関係について
6. 美術・音楽・映画等におけるデカダンス（モロー、スクリャービン、「愛の嵐」等）
7. 文学史的研究（リシャル、フレッチャー、ステーブルフォード等）
8. 文化史的研究（ウェーバー、オルテガ、ヴェブレン等）
9. ニーチェのデカダンス批判
10. 病理現象としてのデカダンス（トルストイ、ノルダウ、ロンブローゾー等）
11. 対比的研究（ダンディズム、アンチ・デカダン、カウンター・デカダン）
12. 風俗としてのデカダンス（ファッション、セックス、酒、麻薬）
13. 各国のデカダンス運動（フランス、イギリス、ドイツ、ロシア、イタリア、アメリカ）
14. テーマ別研究（プラーツやダイクストラにおける「宿命の女」「両性具有」等）
15. 列伝体アプローチ（シモンズ、クロフツ・ーク、チャールズワース、前川等）
16. グループ別研究（アルフォードの「ライマーズ・クラブ研究」など）
17. プレ・デカダンティスム（ナルバンティアンの「デカダンスの種子」など）
18. 伝記的研究（バルティック、ジュリアン、ゴードンらによるユイスマンスやモンテスキューの伝記等）
19. 作品の系列について論ずる方法（たとえばワイルド、リラダン、ジャン・ロラン、エーヴェルス、トーマス・マン等の作品に一貫するテーマの比較文学的アプローチ）
20. デカダンスにおける「甘え」の構造について（富山太佳夫）
21. イデオロギーとしてのデカダンス（エンゲルス）

- 
22. カリカチュアの対象としてのデカダンス（サリヴァン、ライオネル・ジョンソン、ル・ガリエン、ヒッチェンズ等）
  23. 政治・宗教・科学におけるデカダンス現象について
  24. スポーツとデカダンス（クーベルタンのオリンピック提唱）
  25. ポスト・デカダンティズム（ラフォルグ、コルビュールよりT. S. エリオットへ）
  26. 日本のデカダン文学（漱石、秋声、泡鳴、広津柳浪、荷風、谷崎、坂口安吾、太宰治、田中英光、織田作之助、壇一雄等）

## ※

大体以上のレジュメに副って述べ、結論として、ワイルドに代表されるせまい意味での19世紀末ヨーロッパのデカダン文学運動は、シモンズが詩集「ロンドンの夜」第2版の序文で言っているように、ペイター以来の唯美主義を更に徹底させたもの、ととらえた。

